

1

PLAT NEWS

2

- 3 [水] プラットワンコインコンサート 高柳鞠子「パリに恋して」
◎PLATアートスペース
- 7 [日] 豊橋市松山校区 二十歳の集い◎PLATアートスペース
- 8 [月・祝] 豊橋 New Year's Concert 2024◎PLAT主ホール
- 12 [金] - 14 [日] 『海をゆく者』◎PLAT主ホール
- 13 [土] ヴァイオリニスト白井崇陽トーク&コンサート ふるさとシリーズvol.1
◎PLATアートスペース
- 14 [日] 豊橋落語天狗連「10周年特別興行 新春天狗連名人会？」
◎PLATアートスペース
- 21 [日] 第22回とよはしまちなかスロータウン映画祭
オープニングイベント 窪田正孝・石川慶監督シネマ&トーク◎PLAT主ホール
- 24 [水] - 25 [木] 豊橋演劇鑑賞会 第300回例会
こまつ座公演『連鎖街のひとびと』◎PLAT主ホール

- 3 [土] - 25 [日]
第22回とよはしまちなかスロータウン映画祭
◎PLATアートスペース
- 3 [土] - 4 [日] / 10 [土] - 11 [日]
17 [土] - 18 [日] / 24 [土] - 25 [日]
スロータウンシネマ
- 4 [日] 『ドキュメント サニーデー・サービス』
カンパニー松尾監督・曾我部恵一シネマ&トーク+パンフレットサイン会
- 10 [土] 踊る! 食べる! 盛り上がる! 『RRR』応援上映
- 11 [日] 加藤菜津シネマ&トーク
- 17 [土] ピーター・バラカン Special
- 25 [日] 渡辺いっけい・前田直樹監督シネマ&トーク

- 7 [水] ぶらっと落語会◎PLAT主ホール
- 9 [金] 0歳からの・はじめてのオーケストラ◎PLATアートスペース

- 10 [土] 第11回 桜丘高等学校ダンス部自主公演「STEAL THE SHOW」
◎PLAT主ホール

- 12 [月・休] 二兎社
『パートタイマー・秋子』
◎PLAT主ホール

- 15 [木] プラットワンコインコンサート
デュオ・ミスコレラレ「Fusion of Jazz&Classic」
◎PLATアートスペース

- 23 [金・祝] 豊橋技術科学大学
安全安心地域共創リサーチセンター
2023年度防災シンポジウム
「地震防災のキーワード:耐震化と情報化」
◎PLATアートスペース

表紙/沢口靖子「パートタイマー・秋子」
裏表紙/『海をゆく者』
企画・発行/公益財団法人豊橋文化振興財団
編集・デザイン/味岡伸太郎+有限公司STAFF
令和5年12月発行65号[隔月発行]



PLAT NEWS

プラットニュース



CONTENTS

目次

1

目次
表紙の顔

2

INTERVIEW:1
二兎社『パートタイマー・秋子』
劇場に来ないともこんな面白い沢口さんは見られない。
永井 愛
時に共感し、時に笑いながら観てください。
沢口靖子

5

INTERVIEW:2
『海をゆく者』
このメンバーでやれるのは多分最後。
生きてきたことをそのままさらけ出します。
平田 満

7

COLUMN
読売日本交響楽団ニューイヤー・コンサート
藤岡幸夫 × 亀井聖矢《愛のシベリウス》
プロコフィエフの第3番はすべてのピアノ協奏曲の良ところだけを集めたような傑作中の傑作。全楽章を本番で弾くのは豊橋が初めてです。
亀井聖矢

9

INFORMATION
PLAT主催公演情報

13

PURA PURA
バラコノ寄り道ぶらぶら
「たわごと」に秘めたもの
桑原裕子

14

SPONSOR
SUPPORT
TICKET CENTER

INTERVIEW

インタビュー



永井 愛[ながい・あい]
劇作家・演出家・二兎社主宰。桐朋学園芸術短期大学演劇専攻卒。身辺や意識下に潜む問題をすくい上げ、現実の生活に直結したライブ感覚あふれる劇作を続けている。代表作に『ザ・空気』『ザ・空気 ver. 2』『ザ・空気 ver. 3』『鷗外の怪談』『歌わせた男たち』『片づけたい女たち』『こんにちは、母さん』『見よ、飛行機の高く飛べるを』『ら抜き殺意』など。鶴屋南北戯曲賞、岸田國士戯曲賞、朝日舞台芸術賞秋元松代賞、芸術選奨文部科学大臣賞、読売演劇大賞最優秀演出家賞などを受賞。



平田 満[ひらた・みつる]
愛知県豊橋市出身。つかこうへい事務所にて俳優活動をスタート。映画・テレビ・舞台などに数多く出演。映画『蒲田行進曲』で日本アカデミー賞主演男優賞など受賞。2001年舞台『こんにちは、母さん』『ART』で第9回読売演劇大賞最優秀男優賞、2020年『THE NETHER』で第27回読売演劇大賞男優賞を、2014年『海をゆく者』『失望のむこうがわ』で第49回紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。2006年アル☆カンパニーを設立。『(お)もろい夫婦』以来、『荒れ野』『POPPY!!!』などを制作、出演。PLATの初代芸術文化アドバイザー。2018年4月より同劇場アソシエイトアーティストに就任。

COVER

表紙の顔



沢口靖子[さわぐち・やすこ]
大阪府出身。1984年 第1回「東宝シンデレラ」グランプリ受賞。翌年NHK連続テレビ小説『湾くし』で国民的人気を獲得した。以後、映像、舞台、CMで活躍。1999年の開始以来主役を務める人気テレビドラマ『科捜研の女』はSeason23まで放送されている。また、東宝製作『蔵』『細雪』『熱海五郎一座』『台所太平記』の他、『Bad News ☆Good Timing』(三谷幸喜演出)、『びっくり箱』(福島三郎演出)、伊東四朗・三宅裕司コントライブ『いい加減にしてみました3』など、多彩な舞台で観客を魅了。二兎社は2011年の『シングルマザーズ』以来2度目の出演。



『海をゆく者』
アイルランド演劇界をリードする気鋭の劇作家コナー・マクファーソンの出世作にして、代表作。日本では、演劇界を牽引する5人の名俳優達、演出家栗山民也の元に結集し、丁々発止のセリフの応酬と円熟味あふれる絶妙なアンサンブルで、2009年に初演、2014年にはPLATでも再演され、そして今回の上演では新たなキャストを迎えて、珠玉の名作が復活します。

INTERVIEW

インタビュー

2月12日[月・休]13:00開演

作・演出=永井愛

出演=沢口靖子、生瀬勝久/亀田佳明、土井ケイト、吉田ウーロン太、
関谷美香子/稲村梓、小川ゲン、田中 亨、石森美咲/水野あや、石井愼一
会場=PLAT主ホール

二兎社 『パートタイマー・秋子』

スーパー「フレッシュかねだ」は
想像を超えたディストピアだった……



今回の『パートタイマー・秋子』で沢口さんにオファーされた理由を教えてください。

永井—— 実現しなかったのですが、二兎社の別の芝居でオファーしたときに初めてお会いしました。質問してよろしいですかと、台本を出されたときの付箋の量がすごくて、その頭がピタッと一直線にそろっているんです。わからないことを、どんどん質問さるんですが、その真面目さと、ちょっと天然な感じのバランスが、何とも魅力的だなと。『シングルマザーズ』に出ていただいたときも、たくさんの資料を読み、私の間違いまで見つけてくださって、すていなと思いました。

沢口さんみたいに、優しく可憐なイメージの方を、ハードな職務につく科捜研の榎マリコにした配役は斬新でしたが、それとは違う沢口さんを久々に見たのは、伊東四朗さんとの「コントライブ」。言われたことをとことく勘違いする秘書役を演じられたんですが、手練れのコメディアンと違って、まっしぐらに真面目にやるから、爆弾級のおかしさでした。こんなに笑わせてくれる沢口さんを知らないのはもったいない。今回も、一見真面目な役なんですが、コメディエンヌとしての沢口さんの才能を堪能していただけたと思います。セレブな奥様の沢口さんが、地元密着型の小さなスーパーのバイトに応募してきたらと、想像するだけでもおかしいでしょう。劇場に来ないとそういう沢口さんは見られません。

沢口さんは、『シングルマザーズ』以来の二兎社ですが、オファーを受けて、どのように思われましたか。沢口—— 『シングルマザーズ』では、膨大な資料を基に、セリフやト書き、一つ一つにエピソードを加えて、丁寧に話してくださり、セリフ一つ一つを明確にイメージして伝える大切さを学び、それが新鮮で、舞台作りは面白いなと感じました。また一緒に一緒にいたいと思っており、ぜひ参加させていただきたいと思いました。今回『パートタイマー・秋子』をどのような思いでおやりになるのでしょうか。

永井—— 2003年の米英によるイラク攻撃が始まる直前、世界各地で反戦運動が起きていたときにこの作品を書きました。武力攻撃は何とか止めたいと、「非戦を選ぶ演劇人の会」が結成され、私も入っていたのですが、『パートタイマー・秋子』の締め切りと重なって、皆と一緒に行動できず、情けない思いをしました。

アメリカのような大国が「自衛のため」と称してイラクに先制攻撃し、市民の上に爆弾を落とす。そんなことが、21世紀の今起きようとしているなんて、信じられなかった。世界への信頼が揺らぐ中で書いた作品です。イラク戦争と『パートタイマー・秋子』はイコールではありませんが、なにもなく平和だったら、この作品はこういう展開にはならなかったでしょう。作品には、その時点での作者の世界観がどうしたって反映されます。貧困と格差、そこから生まれる憎しみ、フェイク、モラルの崩壊、そういったことに抗いながらも巻き込まれてしまう人々——それはいつの時代にも、普遍的でなおかつ緊急のテーマです。『パートタイマー・秋子』に登場するのも、ある種の虐げられた労働者階級で、気の毒と言えば気の毒ですが、それをゆえに不正にも手を染める、単純に被害者とは言い切れない人たち。『パートタイマー・秋子』が人間を描いたドラマとして

普遍性があるかどうか、今一度世に問いたいのです。沢口さんに、この台本をお読みになった感想をお伺いできますか。

沢口—— 秋子の、世間知らずで、正義感の強いところは私と似ています。秋子は、真っ白な人で、パート先で会う人たちから影響を受け、価値観が変化をしていきます。パート先のスーパーが、ディストピアな世界で、否定的で非人間的な側面を強調している社会であり、それは現実にも起こりうる。それがユーモアを持って描かれ、時に共感し、時に笑いながら、考えさせられる作品だと思いました。

今、永井さんのお話を聞いて、スーパーマーケットという小さな世界が、実は大きなバックグラウンドというか、背景を抱えている。そういう意味では、ただのコメディではなく、社会的な視点も入った、重厚さも加わった作品だと思いました。

今回、20年ぶりに上演するにあたって、何か変わるところはあるのでしょうか。

永井—— 基本的には、作品は一つの血の通った生き物なので、あとで違うものを入れ込むのは難しいですが、ピンク電話がなくなって携帯電話になったり、監視カメラがないという設定は変えたりと、一つ一つ確かめて「今」にアップデートしています。演出的には、秋子と貫井の間に起きることを丁寧に描きたい。劇が進行するにつれ、二人は立派な人間になるというより、むしろ落ちていくわけですが、かつて経験したことのない体験をすることによって、今までよりも自分のあり方に対しては自覚的になる。そこに説得力が生まれるように稽古を重ねていきたいです。

キャストिंगが決まって、出演者の方々について、どのようなことを楽しみだと思っておられますか。

永井—— こんなに登場人物が多いのは久しぶりで



時に共感し、時に笑いながら観てください。

出演

沢口靖子

INTERVIEW

劇場に來ないと
こんな面白い沢口さんは見られない。

演出

永井愛



す。生瀬さんとは初めてですが、とても尊敬している俳優さんで、ご一緒するのが楽しみ。文学座の亀田さんも今、光の当たっている方ですし、沢口さんと、この2人が作り出す世界は見ものです。他の俳優さんも、実力のあるクセ者ぞろいですから、あまりにも場違いな感じでひんしゆくを買う、セレブな奥様の沢口さんを大いに翻弄してくれるでしょう。絶対面白いと思います。

沢口—— 生瀬勝久さんとはこれまでに2度、夫婦役でご一緒させていただいています。非常に熱くて表現力の豊かな方です。今回は、私が演じる秋子が生瀬さん演じる貫井さんから、大きく影響を受けて、価値観が変化していきます。やり取りをとても楽しみにしています。

沢口さんは映像での活躍の印象が強いですが、テレビドラマと違う心構えが必要でしょうか。

沢口—— やはり舞台は映像と違って、全身を使っての感情表現や、後ろの席まで届く発声や、2時間から3時間で演じ続ける体力も必要となってきます。舞台は鍛えられる場所です。チャンスがあればチャレンジしたいです。

二兎社には毎年のようにお越しいただいていますが、沢口さんは、豊橋にまだPLATができる前、2011年に文化会館での『シングルマザーズ』でお越しいただいて以来ですが、二兎社の出演者として、どういふことを観てもらいたいと思いますか。

沢口—— 豊橋に新しく劇場が生まれたように、私もあれから生まれ変わり、一皮むけた状態で参ります。スーパーを舞台に繰り広げられるディストピアの世界をユーモアたっぷりに描いた社会派コメディです。ぜひ観にいらしてください。お待ちしております。

豊橋での上演については、どのように印象をお持ちでしょうか。

永井—— 豊橋では様々な芝居が上演され、高校生のためのワークショップ、イベント、講座もあり、お客様の目が成熟しているなど感じます。そういう方々に観ていただけるのは、私たちにとって試練でもありますが、いい反応をいただけたときの喜びも大きい。豊橋のお客様には、今回もその「見る力」で、二兎社を鍛えていただきたいと思っています。

二兎社

『パートタイマー・秋子』

『海をゆく者』

カードゲームに託された男たちのクリスマス・イヴ。

最後に笑うのは誰だ!?

1月12日[金]18:00開演

13日[土]、14日[日]13:00開演

作=コナー・マクファーソン

翻訳=小田島恒志

演出=栗山民也

出演=小日向文世、高橋克実、

浅野和之、大谷亮介、平田 満

会場=PLAT 主ホール

MEMBER



このメンバーでやれるのは多分最後。
生きてきたことをそのままさらけ出します。

出演 平田 満

聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場PLAT 芸術文化プロデューサー

田さんはどうお感じになりますか。

平田—— 僕が真っ先に70歳になりましたが、これから続々と続きます。この年まで自分がやれたという幸運も含めて、よくやれたなと思います。皆さん小劇場出身で、いつまで持つかという感じだったのが、最初からメジャーじゃなかった人たちがこの年までやれている稀有な例だなと。しかも、PARCO劇場とか、PLATという大きいところでやれるということも、感慨深いですね。

矢作—— そういうバックボーンが非常に近い方々がこの『海をゆく者』という、非常に小さな仲間内を演じ、必ずしも成功しているわけではなく、華々しい状況でもなく、どこかの町の片隅にいてと思われるような役のお芝居をやるからこそ出せる何かはあつたりすると思われませんか。

平田—— 多分それが、みんないわゆる王道ではない、しかも底辺のお芝居ができる。ある意味で底辺を知っているというにおいのある俳優たちを、ということで、このキャスティングだと思います。同じように力量のある人で同世代の方はいっぱいいらっしゃるが、においと言いますか。これはしょうがないことですから。栗山さんから見て、こいつらならこの世界をやれると思ってくださったのではないのでしょうか。

矢作—— 平田さんにとって地方、また豊橋でこの作品を上演することについてはどうお考えですか。

平田—— PLATの主ホールはとても見やすいし、お客さんの舞台への関わり方がとてもあたたかく、とてもやりやすい。あと、東京の方々は、芝居を観慣れた方も多いと思いますが、地方に巡回する作品は限られているので、地方の方は、東京で作られた作品の一部だけをご覧になる。ある種、新鮮に見てくださると思うので、そういう新鮮さはとても大事にしたいと思います。それで僕らも活性化すると言いますか、新たな気持ちでやれる。やはり、時々そういう新鮮な思いで観てくださる方、あるいは、待ち遠しく思ってください方にお芝居をお見せできるのはとてもいい経験だなと思います。

矢作—— この公演は、助成金をもらって18歳以下の子どもたちを無料招待することになっています。高校生にアプローチして、多く観てもらいたいなと思っております。

平田—— それはとてもいいことですよ。やはり若い人に観てもらわないとね。高校生にとってもなかなか貴重な体験だし。高校生は高校生なりに自分の思いで観てくれる。いろんな見方をしていただいたほうがとてもうれしいです。

矢作—— ありがとうございます。豊橋公演、非常に楽しみにしております。

矢作—— 今回再々演となる『海をゆく者』ですが、平田さんにとって作品の魅力はどのようなところでしょうか。

平田—— むさいおやじたちが5人集まって、飲みながらポーカーをやっているだけですが、とても美しい理想の世界と、現実のつらさを一切難しい言葉なしに感じ取れる、とてもいい作品だなと思います。

矢作—— 初演、再演。しばらく間を空け、三演目と年月を重ね、こういう作品に関われることについて、改めて思われるところはありますか。

平田—— 再演から10年くらい空いて、しかも僕も70歳になりました。普通はもう演劇は引退、と諦めるところで、演出の栗山さんが愛着を持ってこの作品をやりたいとおっしゃってくれた。それがとてもうれしかったです。そして、この作品をこのメンバーでやるのは最後だと思います。10年前のような体力的とかパッション、あるいはパワーは、多分、衰えている。それもすべて自分の中で受け入れ、集大成ではない、今のこの年ならではのやろうかなと。戯曲が求めている人物はもうちょっと若いかもしれませんが、この年の人たちがやる意味が少しでも伝わればいいなと思います。僕自身では、円熟味とか技術とかではなく、もう自分は自分、ということや、生きてきたことをそのままさらけ出すしかない年だと思うのです。お客さんも僕らに対して、若い時みたいに過大なものを求めることはまずないと思う。栗山さんはわかりませんが、今あるもの、今できることだけでいいという気はしています。

矢作—— 栗山さんの演出について、平田さんが面白いと感じておられる点を聞かせてください。

平田—— 初演も再演も、栗山さんがもうどんどん進めて、こちらはそれに追いつくのが精いっぱい。悩む暇もないですね。時間をじっくりかけるタイプの演出家だと、僕は「これなんででしょうね」と考えたり、聞いたりすることが多いのですが、栗山さんは、その暇がない。でも実は重大なことをぼろっと言ったとしても、そのことを「いいか、わかったか」とは言わない。だからこちらはまずは走りながら、「ああ、そうか」とわかっていくのが栗山さんなのかな。演出家のやり方に合わせて、順番は違っても方向性さえ間違っていなければいいと思っています。また、栗山さんはきっかけとか、動きとかを的確に指示してくださってすぐ助けになっています。そこは、俳優に自由にやらせているようで実は栗山演出の中にハマっていくのが、栗山さんのすごいところだなと思います。

矢作—— 小劇場で20代から第一線で活躍されている同世代の俳優さんが一堂に会することについて、平

プロコフィエフの第3番は
すべてのピアノ協奏曲の良いところだけを
集めたような傑作中の傑作。
全楽章を本番で弾くのは豊橋が初めてです。
亀井聖矢 ピアノ

取材・執筆 池田卓夫 音楽ジャーナリスト@いけたく本舗®

COLUMN

藤岡幸夫[ふじおか・さちお]
渡邊曉雄最後の愛弟子。英国
王立ノーザン音大指揮科卒業。
才能あるEU加盟国の若手指揮者
に贈られる「サー・チャールズ・
グローヴス記念奨学賞」を特例受賞。
1994年「プロムス」にBBCフィル
を指揮してデビュー。以後、多
くの楽団に客演。首席指揮者を
務める関西フィルとは2024年
が25シーズン目、19年から東
京シティ・フィル首席客演指揮
者を兼任。BSテレ東「エンター
・ザ・ミュージック」(毎週土曜
朝8:30)に指揮・司会として出
演中。渡邊曉雄音楽基金音楽賞
受賞。

亀井聖矢[かめい・まさや]
2022年11月、ロン＝ティボー
国際音楽コンクール第1位と併
せて「聴衆賞」「評論家賞」を受
賞し、大きな話題を呼んだ。19
年日本音楽コンクール第1位な
ど多数受賞。N響、読響などと
共演。22年12月のサントリーホ
ールデビューリサイタルは完
売し、角野隼斗との2台ピアノ
でのツアーも全公演完売し、絶
賛された。23年5月から、自身
初のソロでの全国12公演ツアー
を開催し、約15,000人を動員。
22年12月、CD「VIRTUOZO」を
リリースし好評を博している。

読売日本交響楽団
1962年、日本のクラシック音
楽の振興と普及のために読売新
聞社、日本テレビ放送網、読売
テレビのグループ3社を母体に
設立された日本を代表するト
ップオーケストラの1つ。22年
12月には、文化庁芸術祭大賞
を受賞した。現在、常任指揮者
をドイツの名匠ヴァイグレンが
務め、サントリーホールや事業
提携を結んでいる東京芸術劇
場などで演奏会を多数開催し
ている。演奏会などの様子は
日本テレビ「読響プレミア」で
放送されている。

い！すべてのピアノ協奏曲の良いところだけを集めたような傑作中の傑作です。自分が最も好きな作品を弾かせていただくので、お聴きいただく皆さんも、絶対に好きになられると確信しています。

ロン＝ティボー優勝を境にオーケストラとの共演も急増していますが、現在、どれくらいの数の協奏曲をレパートリーにされていますか？弾き方は変わりましたか？

亀井—— 2～3日の時間があれば即、本番で弾けるのはプロコフィエフ、ラフマニノフ、チャイコフスキー、リスト、ショパン、ラヴェルなどロマン派から近代にかけての作品で15曲ほどです。自分でソロ・パートだけを確認めたり、もう1人がオーケストラのパートを受け持つ2台ピアノで準備したりも大切ですが、実際にフルートやファゴットなど管のソロとも拍やルバート(テンポの一瞬の変更)を共有しながら、自分のやりたいことを自然にバランスさせていく呼吸は、オーケストラとの共演を重ねてこそ得られるものです。より音楽の流れに沿い、自分の耳と体の感覚が研ぎ澄まされていきます。

ロン＝ティボー以後、練習のやり方も変わってきました。コンクールでもなるべく意識せず、普通の演奏会と同じように取り組み、良い結果を得られたと思うのですが、今はコンクールに向けてガッツとやっていた時期とは、明らかに違うプロセスに進んでいます。本番をこなしながら自分の段階を確かめ、その時点で最良のものをお客様に届けようという試行錯誤の繰り返しです。タッチひとつとっても1年前と一昨日、昨日、今日では全く違います。アンテナを日々研ぎ澄まし、本番ごとに自分のやりたい音楽と心技体の一致点を探り、深めながら、うまく操縦できる方法を模索している最中です。

日本の若いソリストの中にはヴァイオリンの辻彩奈さんをはじめ、協奏曲のアンコールに弾く小品を権代敦彦さんら同時代の作曲家に委嘱するといった動きもあります。

亀井—— 同時代の作品には興味があり、新作委嘱もたまに考えますが、実はピアノ演奏と並行して、作曲も本格的に学んでいます。最終的にはピアニストとしての自分の特性をとことん生かし、作曲家としてもアウトプットできるような音楽家を目指したいです。

23年秋から、ドイツに留学しましたね。

亀井—— カールスルーエ音楽大学です。ロン＝ティボーの審査員を務めていらした児玉桃先生が昨年から教授に就かれたので、ぜひ師事したいと願い、受験しました。ご自身も第一線の演奏家であり、教えてくださることすべてが腑に落ちます。

ドイツの収穫にも期待しつつ、インタビューを終えます。ありがとうございました。

2024年1月27日の「読売日本交響楽団ニューイヤー・コンサート」に出演する亀井聖矢さんは愛知県一宮市で2001年12月20日に生まれた21歳(23年10月取材時点)のピアニスト。22年、パリで開催されたロン＝ティボー国際音楽コンクールのピアノ部門第1位、併せて聴衆賞と評論家賞の2つの特別賞を受賞し、世界的キャリアを歩みだしたライジング・スターだ。プロコフィエフのピアノ協奏曲第3番を全楽章演奏するのは「今回が初めて」といい、豊橋の聴衆は「蔵出し」の瞬間に立ち会える。

読響との共演は何度目ですか？

亀井—— 22年10月、出口大地さん指揮のベートーヴェンのピアノ協奏曲第5番《皇帝》と23年8月、坂入健司郎さん指揮のチャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番に続いて、豊橋が3度目になります。メンバーの皆さんがすぐぐがっちり音楽を提示してくださるため、安心して身を委ね、自分のやりたいことを非常にうまくのせることのできるオーケストラです。プロコフィエフの協奏曲には「合わせ」の難所もありますが、読響となら安心です。

指揮者の藤岡幸夫さんとは？

亀井—— 22年5月にラフマニノフのピアノ協奏曲第3番、23年8月にプロコフィエフのピアノ協奏曲第2番…と共演を重ねています。マエストロはすぐ明るい方で、こちらのやりたいことを尊重してくださる一方、ご自身の理想に基づくアドバイスも積極的に出されます。一緒に音楽をつくる姿勢の本気度が、すごい方です。ロシアの作曲家、セルゲイ・プロコフィエフ(1891—1953)のピアノ協奏曲第3番は1921年初演。20世紀を代表するピアノ協奏曲の傑作の1つです。第3楽章にはロシア革命を受けて1918年、アメリカへ亡命する途中で日本に滞在したとき覚えた音階やリズムが反映されているともいわれます。約30分と手ごころな演奏時間の中に華やかな技巧が散りばめられ、演奏効果も上がることから、若いピアニストの多くがコンクールの「勝負曲」に選んでいます。

亀井—— 僕が第3番の全楽章を本番で弾くのは今回、豊橋が初めてです。元から第2番と3番は同じくらい好きで、たまたま2番の機会が先に訪れました。第3番は初めて聴く人も瞬時に虜にするほど、魅力にあふれています。第1楽章では独特のハーモニーがとっつきにくいわけではなく、展開部にも冗長な部分がなく、あっという間に過ぎていきます。第2楽章の変奏曲では色々な要素がジェットコースターのように展開しても主題が明確なので追いかけやすく、ゆっくりした部分も美しいので耳に残る音楽です。第3楽章は基本リズムミカルに進みますが、中間部の壮大な楽想も素晴らし

1月27日[土]15:30開演
出演＝藤岡幸夫(指揮)、亀井聖矢(ピアノ)、読売日本交響楽団(管弦楽)
会場＝ライブポートとよはしコンサートホール

読売日本交響楽団ニューイヤー・コンサート
藤岡幸夫 × 亀井聖矢
《愛のシベリウス》

『海をゆく者』 **好評発売中**

1/12 [金] 18:00開演

1/13 [土] 13:00開演

1/14 [日] 13:00開演



アイルランド演劇界をリードする気鋭の劇作家コナー・マクファーソンの出世作にして、代表作。日本では、演劇界を牽引する5人の名バイプレイヤー達が、演出家栗山民也の元に結集し、丁々発止のセリフの応酬と円熟味あふれる絶妙なアンサンブルで、2009年に初演、2014年度にはPLATでも再演され、そして今回新たなキャストを迎えて、珠玉の名作が復活します。

作=コナー・マクファーソン
 翻訳=小田島恒志
 演出=栗山民也
 出演=小日向文世、高橋克実、浅野和之、大谷亮介、平田満
 会場=PLAT主ホール
 料金=[全席指定]S席9,000円、S席ペア16,000円、A席7,000円、B席5,000円ほか

18歳以下のお子様を無料で招待

[座席限定・事前申込制]
 文化庁による子供文化芸術活動支援事業(劇場・音楽堂等の子供鑑賞体験支援事業)として採択されました。ぜひこの機会をご活用ください。
 詳細は劇場HPにて確認のうえお申込みください。
 対象=公演当日に小学生~18歳の方



詳細はこちら

読売日本交響楽団 ニューイヤー・コンサート **ライブポートとよはし**

藤岡幸夫×亀井聖矢

《愛のシベリウス》

1/27 [土] 15:30開演 **好評発売中**

出演=藤岡幸夫(指揮)、亀井聖矢(ピアノ)、読売日本交響楽団
 演奏予定曲=モーツァルト:歌劇「後宮からの誘拐」序曲、プロコフィエフ:ピアノ協奏曲第3番、シベリウス:交響曲第2番
 会場=ライブポートとよはし コンサートホール
 料金=[全席指定]S席一般5,000円、A席一般3,500円ほか



二兎社

『パートタイマー・秋子』

2/12 [月・休] 13:00開演

会員先行=12月2日(土)
 一般発売=12月16日(土)



作・演出=永井愛
 出演=沢口靖子、生瀬勝久/亀田佳明、土井ケイト、吉田ウーロン太、関谷美香子/稲村梓、小川ゲン、田中亨、石森美咲/水野あや、石井愼一
 会場=PLAT主ホール
 料金=[全席指定]S席6,000円、A席4,000円ほか
 ※発売日初日は、お一人様1申込につき4枚までの枚数制限あり。



託児サービス対象公演

要予約。生後6ヶ月以上。
 お一人様500円。お申込み、お問合せは
 プラットチケットセンターまで

マイセレクト4 対象公演



PICKUP

ふらつと落語会

2/7 [水] 18:30開演 **好評発売中**

テレビなどでお馴染み春風亭昇太をはじめ、人気者・芸達者が勢揃い!
 出演=春風亭昇太、三遊亭遊雀、宮田陽・昇、桂小すみ
 会場=PLAT主ホール
 料金=[全席指定]一般3,000円ほか



春風亭昇太
 お馴染み『笑点』大喜利の司会で、落語芸術協会会長。テレビ・ラジオのメディア出演も多数で、新作と古典どちらでも昇太流爆笑落語を披露します。趣味は城郭巡り。

宮田陽・昇
 「47都道府県」「U.S.A」「中国地図」など記憶を駆使した漫才が好評。落語芸術協会と漫才協会に所属し、寄席を中心に全国の劇場で活躍しています。



桂小すみ
 日本古来の三味線と端唄の可能性を広げ、クラシックやポピュラー音楽、ボサノバなどの洋楽も取り入れた高座は圧巻です。小すみの「小」は師匠の小文治、「すみ」は玉川スミに由来する。

三遊亭遊雀
 本寸法の古典落語を演じるが、とにかく楽しく明るい芸風でお客様を笑顔にします。生粋の鉄道好き(乗り鉄)で、全国に旅をして鉄道を楽しんでいます。

令和二年二月七日(水)
 開演 18時30分(開場 18時)
 徳の国とよはし芸術劇場
 PLAT主ホール

料金(全席指定税込)

- 一般 3,000円
- U25(大学生以下) 1,500円
- 高校生以下 1,000円
- 小学生以下 500円

チケット発売: 12月11日(土) 18時

会員先行: 12月11日(土) 10時

一般発売: 12月18日(土) 10時

主催: 読売新聞社
 共催: 読売新聞社、読売文化センター、読売文化センター、読売文化センター、読売文化センター



市民と創造する演劇2022年度「悲劇なんてまともじゃない」舞台写真 撮影：伊藤華織

市民と創造する演劇 『地を渡る舟 -1945 /アチック・ミュージアムと記述者たち-』

3/2 [土] 14:30 開演
3/3 [日] 14:30 開演

会員先行=1月6日(土)
一般発売=1月20日(土)

2023年度の「市民と創造する演劇」は、てがみ座主宰・劇作家・脚本家として活躍する長田育恵の『地を渡る舟-1945 /アチック・ミュージアムと記述者たち-』(2013年初演・2015年再演)を上演します。てがみ座本公演でも演出を務めた扇田拓也を迎え、棚川寛子の音楽とともにお贈りします。

昭和20年春、来るべき本土決戦が聞こえる中、敗戦の日を予期し、各地の農家を訪ね歩いているひとりの男がいた。その日まであと4ヶ月――。「その日」を迎えたとき、わたちに日本を立て直すために。

【あらすじ】
瀬戸内海の小さな島で生まれた宮本常一。旅する民俗学者と呼ばれた彼は、日本列島を隅々まで歩きぬぎ、人々の営みをありのままに見つめ、受け継がれてきた言葉に耳を澄ませた。そんな彼の活動を支援したのは、戦時下において日銀総裁を務めた渋沢敬三だった。敬三は私財を投じて自宅の敷地内に「アチック・ミュージアム(屋根裏の博物館)」を作り、常一をはじめ、若き民俗学者たちと共に、この国を書き留めようと尽力したが、戦時下に堕ちていく中で、アチック・ミュージアムに集り若き民俗学者たちは戦争の大波に翻弄され飲み込まれていく。

作=長田育恵
演出=扇田拓也
音楽=棚川寛子
出演=オーディションで選ばれた市民 / 大庭裕介、百花亜希
会場=PLAT主ホール
料金=[全席指定]一般2,000円、U25 1,000円、高校生以下500円
※2日(土)は終演後トークあり。
※3日(日)は視覚に障がいのあるお客様のための舞台説明会あり(要事前予約)。



ONE CONCERT ワンコインコンサート

若手音楽家育成事業 プラットワンコインコンサート

「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのワンコインコンサートです。500円で贅沢なひとときをお過ごしください。
会場=PLATアートスペース
料金=[全席自由・整理番号付]500円

「パリに恋して」 **好評発売中**

1/3 [水] 14:00 開演
高柳鞠子(フルート)



「Fusion of Jazz & Classic」

2/15 [木] 14:00 開演 **好評発売中**
デュオ・ミスカラー
松山美津穂(ピアノ)、伊井夕雛(ピアノ)



「語りと営み」

3/19 [火] 18:30 開演
Femme Fatale
安間誉和(ピアノ・作曲)、山本大地(ヴァイオリン)、鈴木崇朗(バンドネオン)、長谷川志樹(ピアノ)、悦木啓人(ベース・クラリネット・作曲)
会員・一般発売=1月3日(水)



WORKSHOP ワークショップ

PLATトーク&レクチャー 「障がいのある人々との 創作活動について」

2023/12/22 [金] 19:00~21:00
障がい者福祉における表現について研究している講師を招き、過去の事例を基にお話します。
講師=長津結一郎(九州大学大学院芸術工学研究院准教授)
聞き手=吉野さつき(愛知大学文学部メディア芸術専攻教授)
ゲスト=遠田誠、倉品淳子、野村誠、里村歩、廣田溪、森裕生
会場=PLAT 創造活動室A
料金=1,000円
定員=30名程度(申込順)
申込方法=①プラットチケットセンター窓口・電話(0532-39-3090)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

プラット2024 新春・主ホール客席見学& プレゼント抽選会

1/3 [水] 15:30~16:15
新年のはじまりを、主ホールの客席見学とプレゼント抽選会でお楽しみいただけます。主ホールの座席を自由に座ってみることで様々な舞台の見え方を体験できる貴重な機会です。後半のプレゼント抽選会では、PLAT主催公演や協賛団体公演の招待チケットやオリジナルグッズなどの景品をご用意しています。年初めの運だめしをPLATでお楽しみください。当日のご参加も可能です。
会場=PLAT主ホール
料金=無料
定員=100名程度
申込方法=①プラットチケットセンター窓口・電話(0532-39-3090)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。



小・中学校・特別支援学校に 出向いてのワークショップ& ワークショップファシリテーター 養成講座 報告会2023

プラットが実施する教育普及活動の報告を聞き、意見交換会をします。
2/25 [日]
10:30~12:30
【第1部】学校で実施しているワークショップを体験する進行役=すずきこた(演劇デザインギルド)
定員=20人(応募多数の場合は選考)
14:00~16:00
【第2部】報告&意見交換会
定員=30人(申込順)

<共通事項>
会場=PLAT 創造活動室Bほか
料金=無料
対象=高校生以上
申込方法=①プラットチケットセンター窓口・電話(0532-39-3090)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

ワークショップファシリテーター 養成講座 2023[後期] 『まちを知る、考える』発表会

1/28 [日] 14:00 開始
ワークショップファシリテーター養成講座の受講生が、豊橋の人や場所を取材し、そこで出会ったことに焦点を当て、短い演劇を創り上演します。
劇場の中に広がる小さな豊橋をご覧ください。
監修=すずきこた、柏木陽、吉野さつき
会場=PLAT 創造活動室A
料金=無料
定員=40名(申込順)
申込方法=①プラットチケットセンター窓口・電話(0532-39-3090)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

TICKET CENTER チケットセンター

チケットの購入・お問合せ プラットチケットセンター

●劇場窓口・電話
0532-39-3090(休館日を除く10:00~19:00)
●オンライン
http://toyohashi-at.jp[24時間受付・要事前登録]

●販売初日はオンライン・電話のみ取り扱い。翌日以降、残席がある場合は窓口販売あり。

U25・高校生以下割引と案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
●料金=U25[25歳以下]:公演ごとに指定する席種の半額/高校生以下:1,000円
●購入方法=各公演の一般発売初日から取扱い。
●その他=本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時本人確認書類提示。一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。



プラットフレンズ募集 入会金・年会費無料

●特典
1 公演情報をメールでご案内します。
2 インターネットでチケット予約ができます。
3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
※劇場窓口またはホームページから登録いただけます。

年末年始休館のお知らせ

穂の国とよはし芸術劇場は、下記の期間休館いたします。
令和5年12月29日(金)~令和6年1月1日(月・祝)
なお、上記の期間中プラットチケットセンターは電話および窓口とも休業いたします。
チケットのご予約は、インターネットをご利用ください。
24時間対応いたしております。
休館中のチケットのお引き取りについてはご予約の際にご確認ください。

「たわごと」に秘めたもの

穂の国とよはし芸術劇場 芸術監督
桑原裕子



「今まで桑原さんの戯曲に桑原さん自身の姿を見ることはあまりなかったんですけど、今回はそれが見えた気がしました」

穂の国とよはし芸術劇場PLATプロデューサー『たわごと』の戯曲を書き終えたとき、かねてより私の作品をご覧頂いている記者さんからインタビューを受けていて、そんなことを言われました。

えっ、そうですか、どのへんが？と、興味深く思わず聞き返してしまいました。その時は、戯曲のどこに自分が反映されているのか、自分でもわからなかったのです。

『たわごと』は、絶筆した老作家が死の床にありと報せを受け、彼の住まう終の棲家に息子たちやその妻、元愛人らが集まってくるというお話。作家という職業設定が自身を投影しているともいえないのですが、そう単純な意味でもないようです。

「戯曲に自分自身を投影して描くことはあるか」と聞かれたら、私の場合、基本的には「NO」ですが、厳密には「結果的にYES」です。

かつては私小説的なものに憧れ、そうした作品の方がより生々しくなるのでは？と思った時期もありました。それで実際に、過去にお付き合いした相手との恋愛エピソードなんかを赤裸々に台詞に綴ってみたこともあったんです。が……できあがってみると絶妙に嘘くさい。本当にあったことなのに、不思議と白々しく映るのです。なぜ。

かつてつけちゃってるんですね、私が、私

の体験に。甘い美化、あるいは過剰なスペースを振りまいて露悪的に、「こんな経験をした私、どう？」とでもいうような。誰かに見られる前提の日記は、むしろ事実を隠し、“こう見られたい自分”という承認欲求を満たした気恥ずかしさが残ります。本当に正直になれないのならば描くべきではないと、ある時期から物語に実体験を入れ込むのはやめました。エッセイなら別ですが、私にはフィクションは切り離して書く方が向いていると思ったのです。

もちろん職業や住環境、生活感が投影されることはあります。というかやっぱり、知らない世界のことはなかなか描けませんから、私が港区に住む高給取りの話を描くことはあまりないでしょう。それならば火星人の話くらいぶっ飛んでる方が思い切って描けるのかも知れません。

ただし描き終わって初めて「ああ、私はこんなことを考えていたんだ」と自分で気づくことがあります。

例えば10年ほど前に辛い恋愛を体験し、私生活で完全に打ちのめされていた頃。短い期間に二つの戯曲を描かねばならず、当時は我ながら涙ぐましいほど必死に自分を現実から切り離し、物語に没入して描きました。ところが後々読み返すと、自分が何を思っていたかがありありと作品に投影されていたのです。ひとつめに書き上げた方は、「それでも人を愛したい」という気持ち

が。ふたつめに書き上げた方には、「信念には果てがある。どれほど辛くても諦めなきゃいけない。けれど、私は私を信じる」という気持ち。ふたつとも、まったく恋愛に絡んだ物語ではないし、なんなら一作はサスペンスだし、たとえ友だちでもこれらの戯曲と私の心情を重ねて理解する人はいないでしょう。描いているときは自分でもまったく気づかないのに、間違いなくあの時の、あの心情が描かせたものだと今はわかります。だから、仮にそれが良作なんて言われると嬉しい反面、複雑な心境です。よく、辛い出来事は芸の肥やしになるなんていいますが、肥やしのために辛い人生を歩みたくはないですから、無意識に描いてしまうものはいえ、ひとつの出来事を骨の髄までねぶり倒そうと思う次第です。

『たわごと』のインタビューを受けたときは、やっと脱稿したばかり。あらすじやテーマをたどたくしく説明しつつも、「自分は一体何を書いたんだ？」と内心、疑問符だらけでした。幕が開いた今、素晴らしい俳優たちの演技を見ながら少しずつ……物語に潜んでいる、今の、自分の心情が見えてきた気がします。

暗号で描いた日記をお見せしているようなものだから、中身は明かしませんが、もし密かに読み解き、共鳴する方がいらしたら、見えない手を繋ぎましょう。

知識製造業
三遠機材株式会社
 http://www.san-en.co.jp

Gallery 48
 呉服町48 TEL.54-4848

魚伊 有限会社 魚伊
 電話 52-5256

グロリアンピアノ地域特約店
白羽楽器 株式会社
 電話 053-464-3015

ケンチク 701
 KURONO ARCHITECT STUDIO
 y.qlo0170@gmail.com

看板広告 **アラキスタジオ**
 豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら
精文館書店
 TEL.54-2345

ONOCOM なければつくる
株式会社オノコム

外科・内科・胃腸科・麻酔科・肛門科
医療法人栄真会 伊藤医院
 豊橋市小池町字原下35 電話45-5283(代)

創業文政年間
茶屋 せく宗
 豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
 豊橋市八町通一丁目22-2 TEL53-2809

豊橋銀行協会 (順不同)
 三菱UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行
 三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 三十三銀行
 十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

創業江戸 御茶屋菓子専門店
若松園
 御菓子司

気まぐれコンサート
 事務局/0532-62-9259(小川)

安心・安全な地下駐車場
パーク500
 プラット主ホール・アートスペース公演等へのお客様は
 30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科
医療法人 塩之谷整形外科
 理事長 塩之谷 昌
 豊橋市植田町関取54 電話0532-25-2115(代)

豊橋名産 **舟ちくわ**

井上皮フ科クリニック
 診療時間 月・火・木・金 10:00~13:00 16:00~19:00
 土 10:00~14:00 休診日=水・日・祝
 電話0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

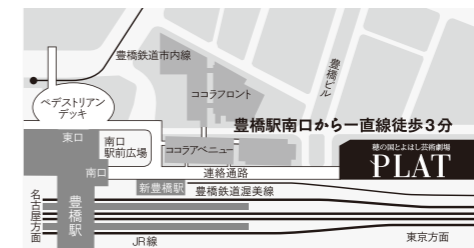
プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
 豊橋市小池町36番地の1 TEL46-3281 FAX46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮フ科
 院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆
 書道用品専門店
高誠堂
 豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

ISO9001 ISO14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
 豊橋市佐藤一丁目12番地の3

sala
 サーラグループ



私たちは穂の国とよはし芸術劇場の活動を支援しています。

- 株式会社アイゼロ
- 旭精機株式会社
- 株式会社イクモ
- 税理士法人イグラ会計
- イノチオホールディングス株式会社
- 株式会社エクステージ
- 大和田和恵
- 株式会社オリエント楽器
- 医療法人佳道会 藤城歯科医院
- 蒲郡信用金庫
- 川西塗装株式会社
- 河原崎 妙
- 株式会社呉竹荘ホテルズ 豊橋ステーションホテル
- 株式会社三光製作所
- 三光精密工業株式会社
- サーラエナジー株式会社
- 株式会社サーラコーポレーション
- 三遠機材株式会社
- 株式会社東雲座カンパニー
- 株式会社シュガーサウンド
- 大三紙業株式会社
- トヨタネ株式会社
- トヨネン株式会社
- 株式会社豊橋印刷社
- 豊橋芸術文化事業サポート株式会社
- 豊橋ケーブルネットワーク株式会社
- 豊橋信用金庫
- 豊橋鉄道株式会社
- 中野博三
- 早川直宏
- 株式会社平松食品
- 藤城建設株式会社
- 学校法人藤ノ花学園
- 株式会社豊川堂
- 松井商事株式会社
- 村田小児歯科センター
- 物語コーポレーション
- 有楽製菓株式会社 豊橋夢工場
- 若松園
- 匿名会員1名 (五十音順)

〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
 電話=0532-39-8810[代表](9:00-20:00)
 開館=9:00-22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。
 第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
 豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、
 新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。
 ※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、
 お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 **PLAT**